

風土記の丘の花だより⁹⁹

今、そしてこれから見られる植物(2021年8月21日)

それにしてもよく降ります。風もよく吹きました。こんなお盆は記憶にありません。各地で甚大な被害に合われている方々を報道で見るに付け心が痛みます。一日も早く日常を取り戻されることをお祈りするばかりです。

さて、花だよりもいよいよ99号。とは言いつつも、いつもと何ら代わり映えのしない内容ですが、ご覧ください。



旧小早川住宅でナツズイセンが咲いています。去年の記録によると、花期が10日余りありますから、これをご覧になる頃でも、まだ大丈夫だと思います。でもこの長雨、ホントに大丈夫かな？ヒガンバナの仲間で、突然に花茎を伸ばし花を咲かせます。園芸植物のリコリスと同じ仲間です。



同じく旧小早川家でホオズキの実がきれいです。ホオズキはナス科の植物です。風船のようにふくらんでいるのは萼(がく)にあたる部分で、それが果実を包み込んで保護しているのです。この実を茎ごと地面に放置しておく、萼の部分をダンゴムシなどがきれいに食べてくれて、葉脈だけが残って、とてもオシャレになります。



この小さな花はエビヅル(今はエビズルと書くのでしょうか)です。ブドウのようなつる草です。よく似たノブドウとの違いは、葉の裏に細かい毛がビッシリ生えていることです。前山A23, 24辺りの草むらに生えています。でもわかりにくいと思いますし、見つけたとて、それほど感動しない、ごくありふれた何のヘンテツもないつる草です。でもまあ一度探してみてください。



最後は地味に針葉樹を紹介します。左の写真はネズミサシです。ネズとも言います。また、盆栽にされると「としょう」と名前が変わります。私の生まれ育った地方では「もろんど」とか「もろんぼ」とか呼んでいたのを覚えています。この木には雌雄があります。万葉植物園の入り口付近に1本植えられているのは雌で、小さな丸い

実ができています。さて、いよいよ次号は記念すべき100号です。

松下